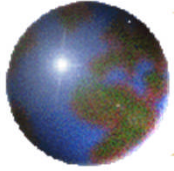


第3次中国専利法改正及び関連 する審査指南・司法解釈の研究 ～次期専利法改正に備えて～

意匠委員会 第二小委員会

日本知的財産協会

世界から期待され、世界をリードするJIPA

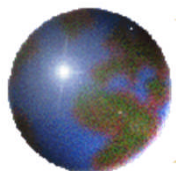


研究目的

中国は、いわゆる新興国の中でも市場規模が最も大きく、各社の事業面での重要性が極めて高いと考えられる。また、知財面においても、特に意匠権については、日本企業勝訴の例も見られ、実効性が高い。このような中、過去の改正の経緯から、数年の内には専利法改正が予想され、当該改正案に対し、日本企業の視点で適切な対応・意見発信ができるよう、現行法を十分に理解しておくことが肝要である。意匠委員会においては過去に専利法レベルでの研究を行ったが、本年度はより実務に即した審査指南を中心に、必要に応じて他の素材（実施細則、司法解釈、判例）も交えつつ研究し、更に深い理解を得る。

⇒ 「2013年度活動テーマ報告まとめ」資料引用

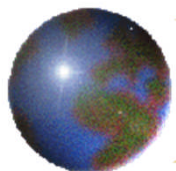




研究した専利法及びその関連法令・法規

	法律	司法解釈	行政法規	部門規定
	専利法 (2009年10月1日改正)	最高人民法院による専利権侵害をめぐる紛争案件の審理における法律適用の若干問題に関する解釈 (2009年12月28日発表)	専利法実施細則 (2010年2月1日改正)	専利審査指南 (2010年2月1日改正)
実施規定	第11条			
公知意匠の抗弁	第62条	第14条		
専利評価報告書	第61条		第56条 第57条	第10章
不登録事由	第25条			第3章6.2
簡単な説明	第27条			第3章4.3
登録要件	第23条1～4項			第3章8
類似意匠	第31条 第31条2項		第35条	第3章9






実施規定（専利法第11条）

実施規定に「販売の申し出」が追加

<従来>

製造  **販売**  **輸入** 

例:

チラシ



カタログ



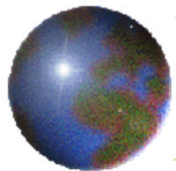
追加（販売の申し出）

展示会



HPの記載



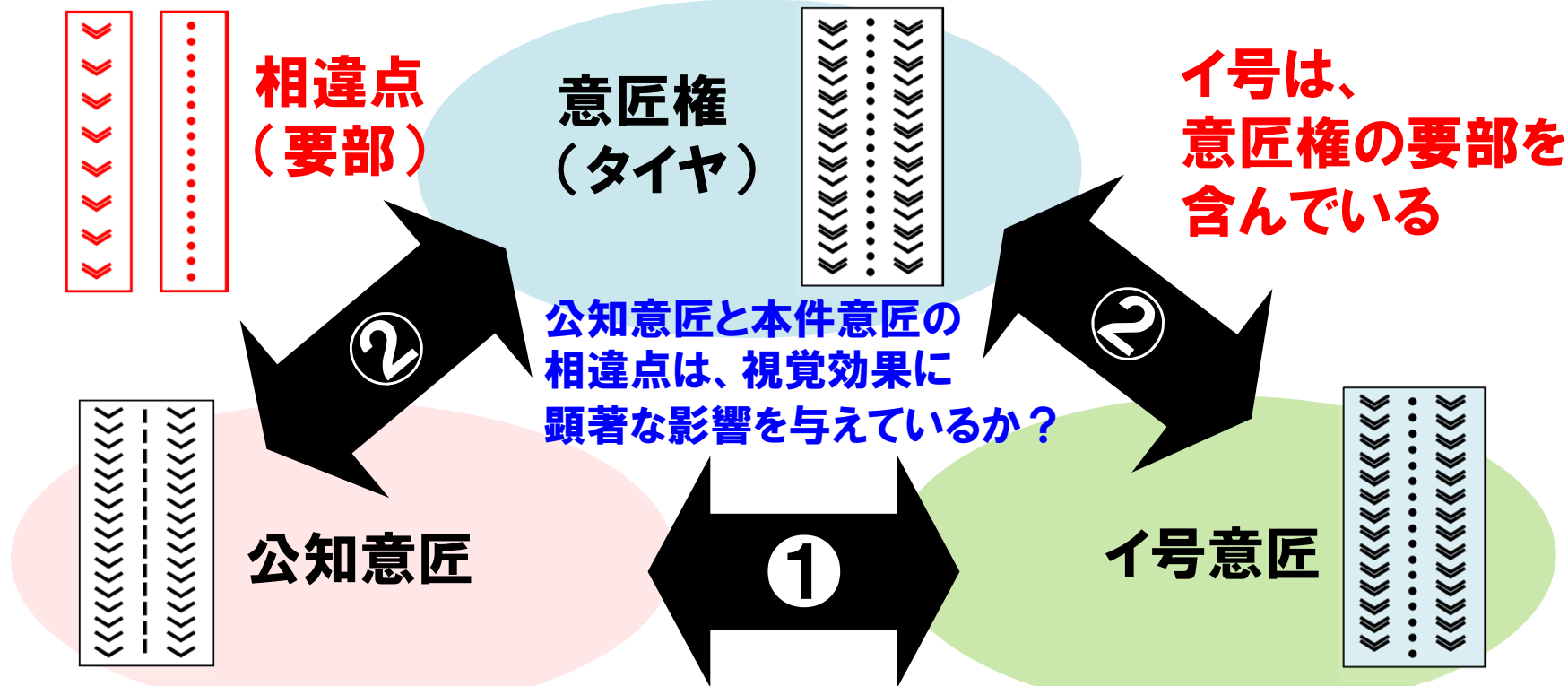


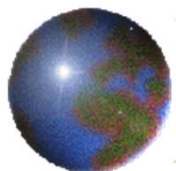
公知意匠の抗弁（専利法第62条）

公知意匠の抗弁が条文として明文化

<最高裁(2010)民提字第189号事件>

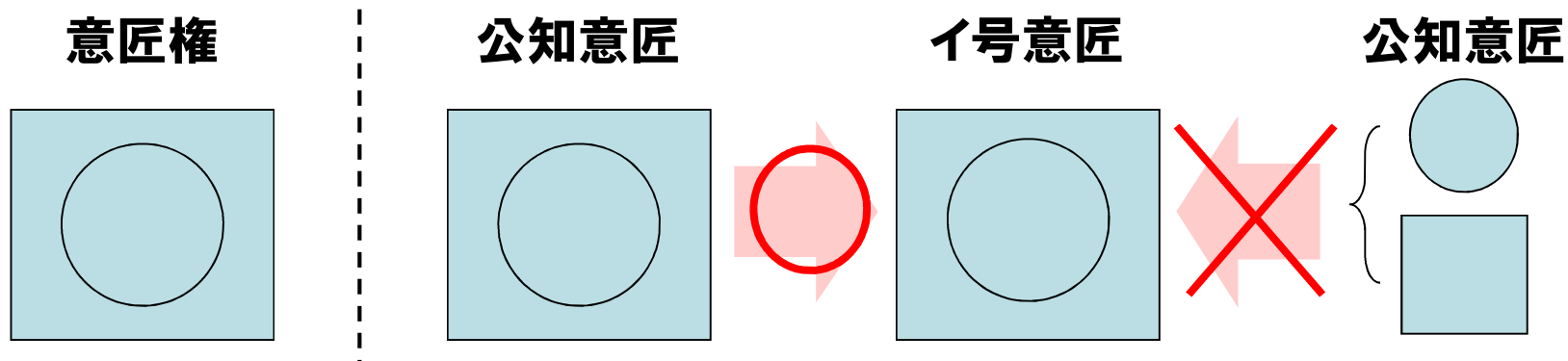
- ① イ号意匠が公知意匠と同一 → 意匠権を考慮するまでもなく、抗弁成立
- ② “ 同一でない場合 → 三者を対比し、イ号意匠が登録意匠と公知意匠の相違点(新規部分=要部)を利用したか否かを考慮

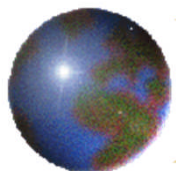




公知意匠の抗弁（司法解釈第14条）

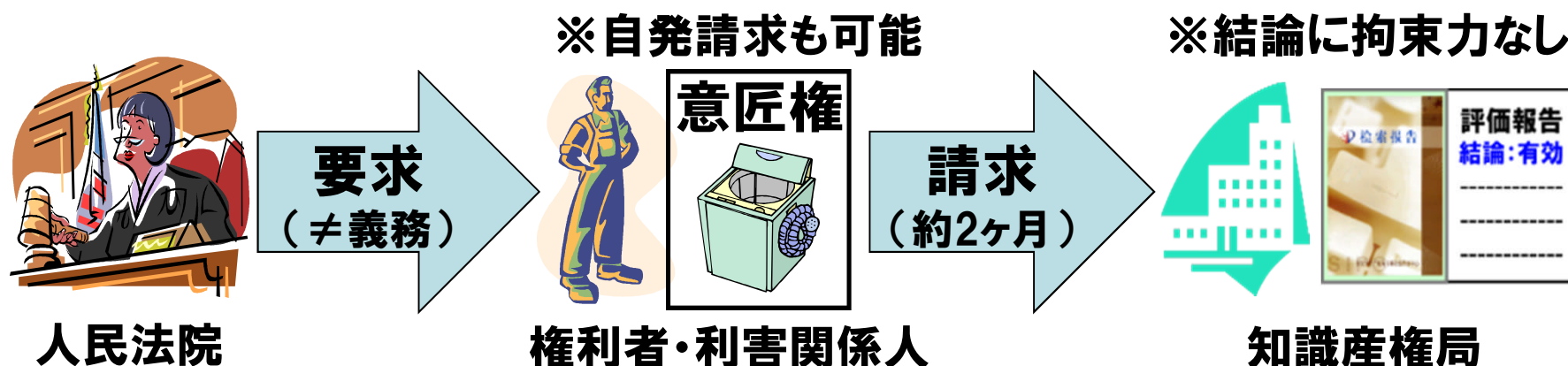
- **公知意匠の抗弁の手順**:まずイ号意匠と公知意匠との対比で判断。両者が同一でない場合のみ、三者（意匠権、イ号意匠、公知意匠）を対比して判断。
- **公知意匠の抗弁の成立は、当該意匠権の有効性に影響を与えない。**
- **被疑侵害意匠と公知意匠を単独で対比すべき。複数の公知意匠又は1つの意匠に該当しないその他の特徴の組み合わせについては認めない。**

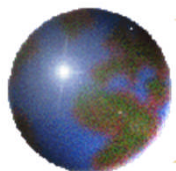




専利評価報告書（専利法第61条）

- 実用新案権(無審査)には、従前から「検索報告制度」があった。改正で意匠にも「専利権評価報告制度」が導入。
- 専利権評価報告の提出は義務ではないが、人民法院等は権利者又は利害関係人に提出を要求する場合があります。尚、自発的に請求することもできる。
- 人民法院又は特許事務管理部門は評価報告の結論には拘束されない。



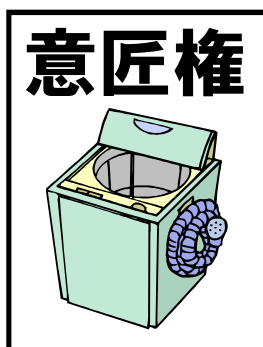


専利評価報告書（審査指南第10章2.2）

請求人適格：権利者 or 利害関係人

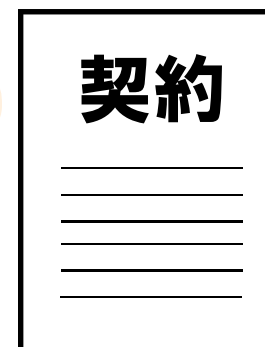
利害関係人とは：

人民法院に提訴をし、または地方知識産権局の特許業務管理部門に処理（差止命令等、ただし強制力なし）を請求する権利を有する者（**= 訴権を有するライセンス**）である。なお、被告には、請求人適格がないとする代理人が多い。



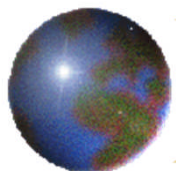
権利者

※訴権付きライセンス



利害関係人





専利評価報告書（審査指南第10章5.）

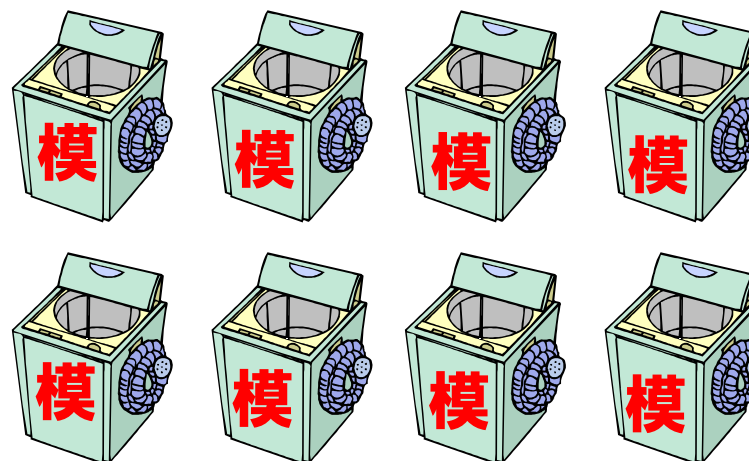
評価報告の閲覧と複写

権利者に不利な評価報告書が作成された場合、それが誰にでも閲覧できる状態に置かれてしまう点、留意が必要

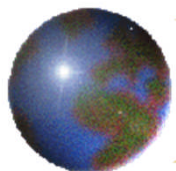


模倣業者

模倣が加速する恐れも...



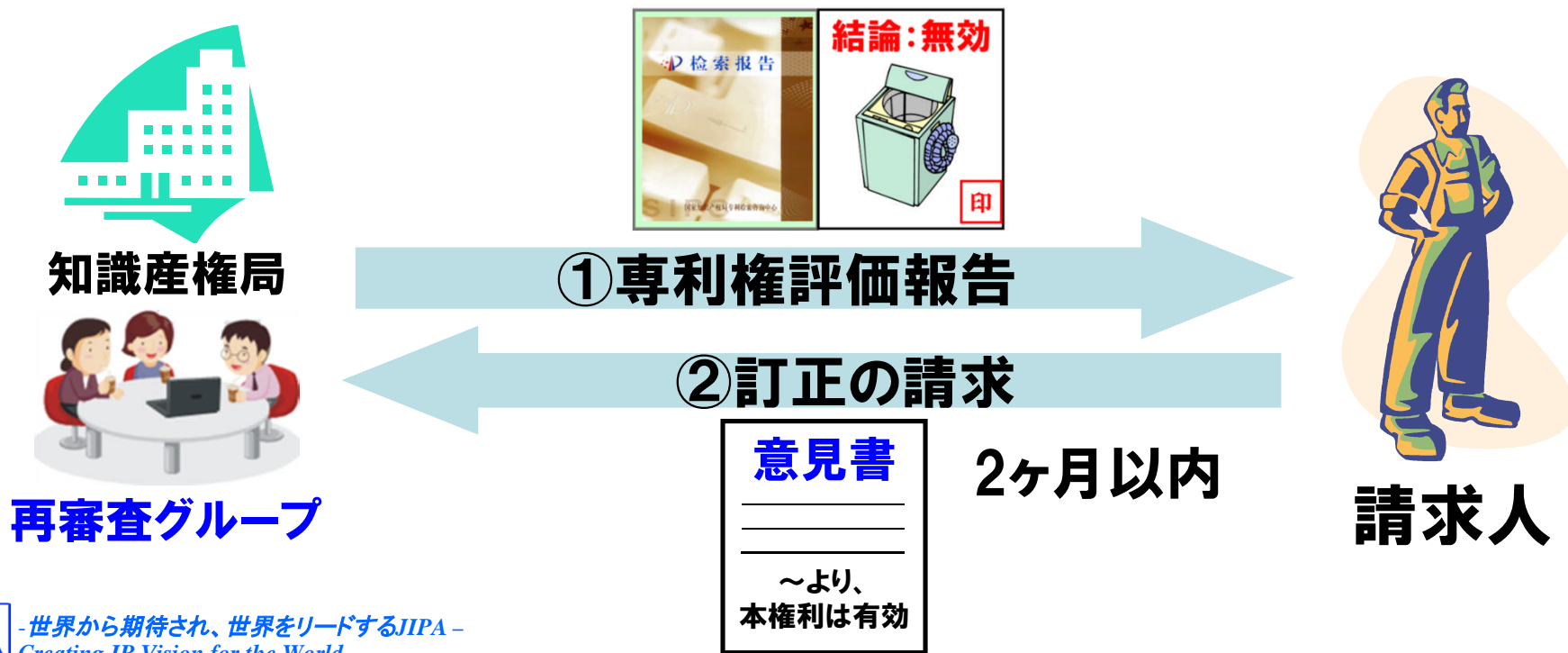
実施細則第57条：
1権利につき、
評価報告の請求は1回だけ

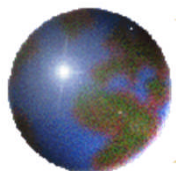


専利評価報告書（審査指南第10章6.2）

訂正手続の開始

- ・訂正は知識産権局が自ら行う場合と、請求人の請求で行う場合がある。
- ・請求人が訂正の請求を行う場合、専利権評価報告の受領後、2ヶ月以内に請求する必要がある。





不登録事由（専利法第25条）

（6）号追加：平面印刷物の図案等、主に表示を機能とする設計

- 本来は商標として出願登録すべきであり、意匠が実質無審査であることを悪用した権利化を防止する規定。しかし、実際には、「平面印刷物の図案」と思われる登録例がある。
- このような登録例は実際に権利行使された例がなく、権利の有効・無効につき、明確な判断はされていない。

<6号との関係が不明な例>

※あくまで登録例であり、権利の有効性に言及するものではない



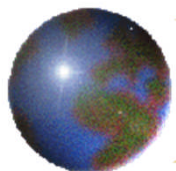
（ZL201030117984.4、包装袋）



（ZL201230242773.2、瓶貼）



（ZL201230548056.2、瓶貼（活力心））



不登録事由（代理人へのヒアリング）

【考え方の目安】

※あくまで考え方の目安であり、権利の有効性にまで言及するものではない

- ・設計1は、主に表示を機能とする平面印刷物と認定され、登録できないと思われる。
- ・設計2は、主に表示を機能とする平面印刷物と認定される傾向にあるので、登録できないと思われる。
- ・設計3は、表示を機能とすると共に設計(デザイン)の内容もあり、装飾性と美感があるため、登録できるとと思われる。

設計1



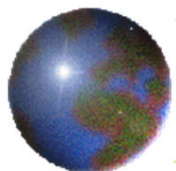
設計2

主视图



設計3





簡単な説明（専利法第27条）

簡単な説明の内容：

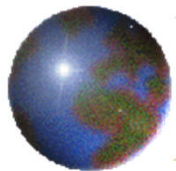
- ①意匠物品の名称 ②意匠物品の用途 ③意匠の設計要点
- ④設計要点を最も明確に表現する図面又は写真
- ③に関しては、先行技術と相違する物品の形状等、又は部位を簡潔に記載しなければならない。

※③設計要点の記載例

- 意匠の設計要点は物品の形状にある。
- 意匠の設計要点は正面図に表れる。
- 意匠の設計要点は正面図中のボタンである。
- 意匠の設計要点は正面図の左端部である。

関連する専利審査指南：第1部分第3章4.3





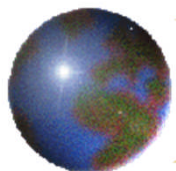
簡単な説明（代理人へのヒアリング）

- ・改正時は、設計要点により、出願設計を従来設計と区別する趣旨であったが、その後審査指南に『意匠の簡単な説明における設計要点は、必ずしも意匠全体の視覚効果に対して顕著な影響を与えることにならない』旨の記載が追加

例えば、「自動車の意匠において、簡単な説明ではその設計要点が自動車の底面にあるとされていても、自動車の底面の設計は自動車全体の視覚効果に対して顕著な影響を与えない」と規定された。

- ・よって、現在の考え方は、設計要点は出願人の主観的なものであり、あくまでも参考というのが主流のようである。簡単な説明が判断に影響を与えた判例も見当たらない。





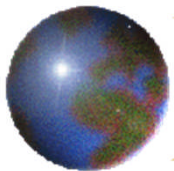
登録要件（専利法第23条）

- ① **絶対新規性の導入（専利法23条1項、4項）**
中国国外の公知・公用の意匠も登録要件を満たさない。
- ② **創作非容易性要件の導入（専利法23条2項）**
出願する意匠は、公知意匠の組み合わせであってはならない。
- ③ **抵触出願に関する規定の導入（専利法23条3項）**
自己の意匠出願日前の出願で、自己の意匠出願後に公開された意匠公報と同様の意匠は、登録要件を満たさない。

- ・意匠には実体審査がないため、登録意匠が専利法第23条の要件を満たすか否かについては、主に特許性評価報告や無効審判手続きにおいて現れている。
- ・抵触出願は、日本の「拡大された先願の地位」に類似する制度だが、「いかなる部門又は個人」の文言により、同一出願人による出願にも適用がある。

関連する専利審査指南：第1部分第3章、第4部分第5章





登録要件（審査指南第3章8.）

『新規性』については、審査官は検索を実施せず、一般消費者の常識で、新規性の有無を判断すればよいとされている。このため、新規性の有無の判断は、審査過程ではなく、特許性評価報告や無効手続きで実質的には行われる。

⇒ 検索は行わずに、出願書類の内容および一般消費者の常識で先行技術と合致していないか否かを判断するだけであり、実質的に審査は行わない。

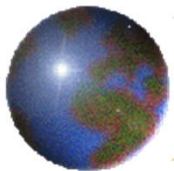
※4次改正で“検索を行わず”が削除される見通し

<方式審査>

調査対象項目	方式審査	無効審判
新規性(専利法23条1項)	△	○
創作非容易性(専利法23条2項)	×	○
抵触性(専利法23条3項)	×	○

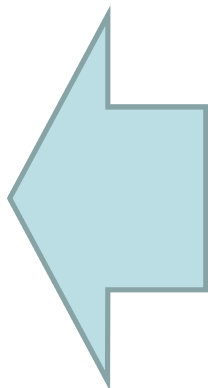
○:実施する, △:明らかな違反の場合のみ, ×:実施しない





創作容易の審決例1 (6W100852:ジュースー)

本件意匠



引用意匠1

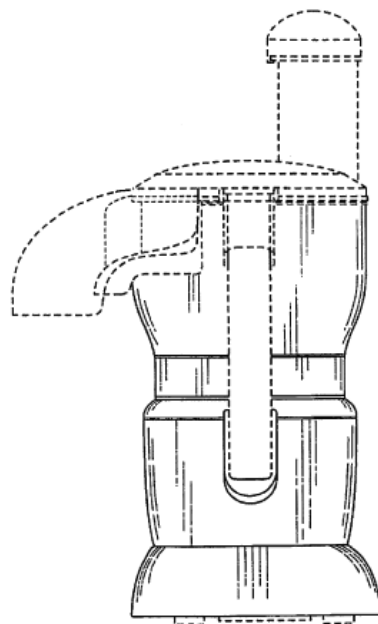


FIG. 3

引用意匠2

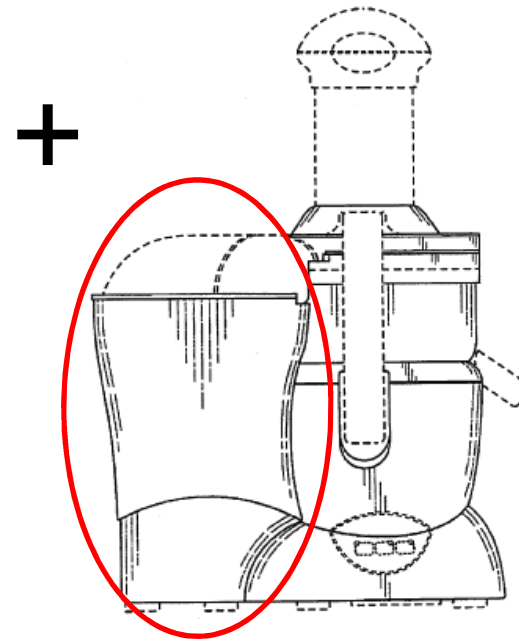
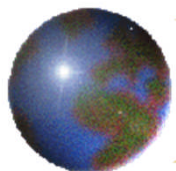


FIG. 2

審決の判断要旨: 本件意匠における容器は、基本的に引用意匠2により開示された容器と同様なものであり、かつ引用意匠2は容器と攪拌機の本体と組み合わせる示唆を与えたため、本件意匠と引用意匠1と2の組み合わせに対して明らかな区別のないものである。

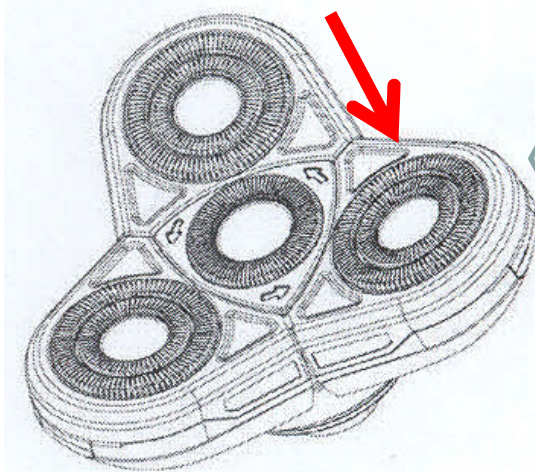




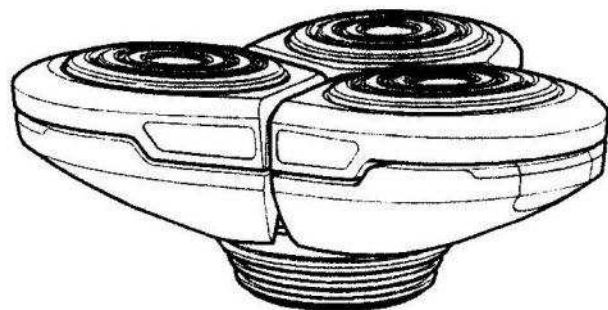
創作容易の審決例2 (6W101533:シェーバー)

本件意匠

傾斜(特徴)

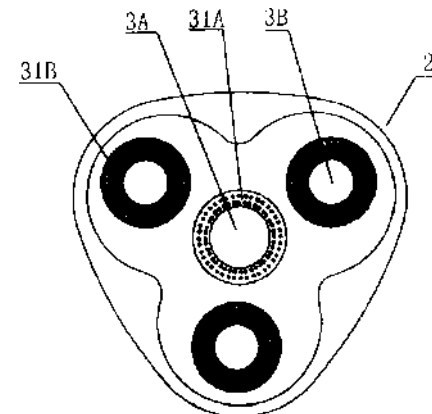


引用意匠1



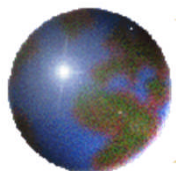
引用意匠2

+



審決判断の要旨:引用意匠2は三つの外側剃刀ヘッドが中央ヘッドを囲んで設けられるレイアウトを有するものの、外側剃刀ヘッドが中央ヘッドに対して傾斜して設置される特徴がない。本件意匠は引用意匠1と2の結合に対して明らかな区別がある。





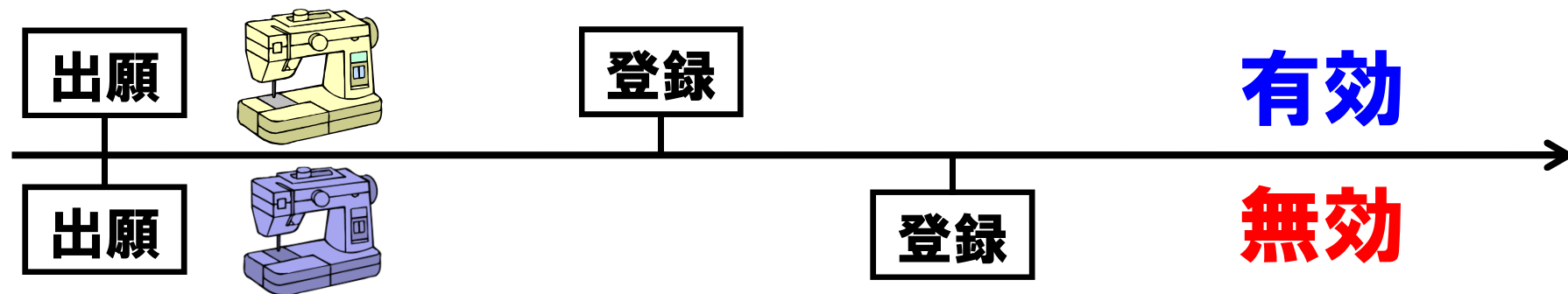
類似意匠（専利法第31条）

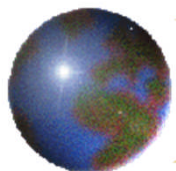
- ・類似意匠として出願できる意匠は、物品が同一であり、基本意匠に類似（＝明確な差異がない）する意匠（審査指南：第1部分第3章9）
- ・一出願に含めることのできる意匠は**10件以下**（実施細則第35条）
- ・類似意匠の一つが無効理由を有しても、全体は無効にはならない。

<※参考：審査指南第7章2.>

互いに類似する意匠を別出願した場合、重複登録により無効

- ① 出願日が異なる場合：後願が無効
- ② 出願日が同一の場合：登録日が異なれば、後登録が無効
登録日も同一の場合：無効審判を請求された意匠登録が無効
（全ての意匠に無効審判が請求⇒維持する意匠を権利者が選定）





類似意匠（審査指南第3章9.）

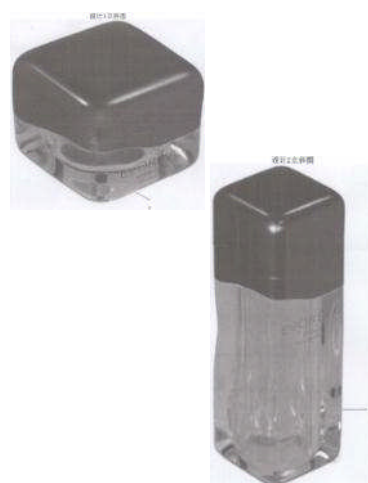
一般的に、全体観察を経て、その他の意匠と基本意匠とは、同一または類似した設計特徴を備えており、かつ両者間の相違が

- ① 局部における細かな変化、
 - ② 当該種別の製品の常用設計、
 - ③ 設計ユニットの並びの繰り返し又は
 - ④ 単なる色彩要素の変化
- などにある場合、通常両者が類似する意匠とされる。

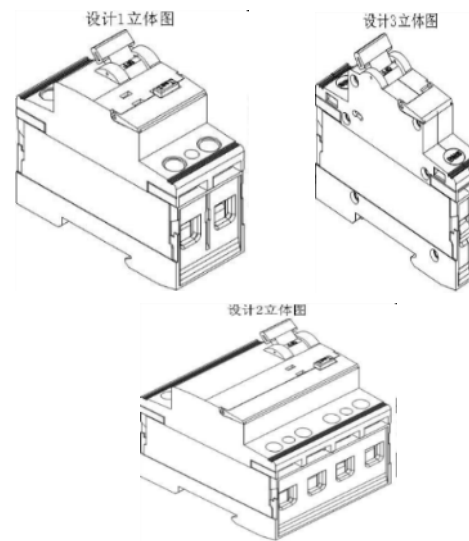
① 局部の些細な相違



② ありふれた部分の相違

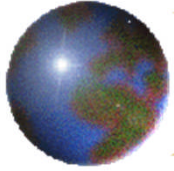


③ 単位の繰り返し



④ 色彩の相違



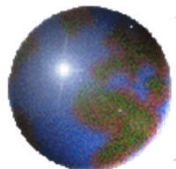


まとめ

2013年度の活動として、各種条文・審査基準等の研究・分析を行ってきたが、無審査であることにも起因する不明点が未だ多い。(簡単な説明が権利範囲に及ぼす効果、平面印刷物の登録性等)

**2014年より画像意匠(GUIを含む製品意匠)が中国でも導入されるが、上記のような状況から平面印刷物と同様の疑義が生じる懸念がある。
意匠委員会として、登録性の基準や権利範囲等について当局に明確化を求めると共に、審決・判例等のWatchingを他の項目と併せて引き続き行っていく。**





2013年度 メンバー（意匠 第二小委員会）

委員長：林 真紀（キャノン株式会社）

副委員長：酒井 壮士（パナソニック株式会社） ※第二小委員長

市坪 達也（ロート製薬株式会社）

中津川 良枝（株式会社日本電気特許技術情報センター）

平林 伸夫（セイコーエプソン株式会社）

委員：上部 祐美（ブラザー工業株式会社）

鈴木 祥代（ユニ・チャーム株式会社）

壽山 竜之（新日鐵住金株式会社）

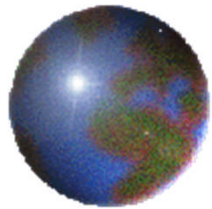
八田 尚之（三菱電機株式会社）

羽鳥 裕子（サントリーホールディングス株式会社）

米倉 雅子（カシオ計算機株式会社）

協力：柳沈法律事務所





世界から期待され、世界をリードするJIPA
Creating IP Vision for the World

ご清聴ありがとうございました